

平成 16 年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会 分散会協議内容まとめ

分散会 ・ (ブロック分散会)

<北海道・東北ブロック>

分散会 ブロックリーダー研究大会について

期日：平成 16 年 10 月 9 日～11 日

会場：北海道立森少年自然の家

(1) ディスカッションについて

昨年度のテーマ「リーダー不足について・広報活動について」

ディスカッション枠 ～

昨年度までの活動報告

- ・ PR ビデオの進行状況、取り組んだ内容について

テーマ別話し合い

1. リーダーのネットワーク作り：広報活動（PR）、紙 and 映像
2. リーダーの連携について（県少年団、指導者協議会、県内リーダー会、県外リーダー会などとの連携について）

広報が末端に届いていないという、昨年度の問題点改善のため
以上を各県で事前に話し合いをして、県としての意見交換をできるように。

3. (指導者のディスカッションテーマ) 指導者としてリーダー会をどのようにバックアップするか

のテーマ別話し合いを継続

全体会...テーマ別で話し合った内容の確認

(2) レクリエーションの用意

交歓交流会の際に各県相互のレクリエーションの向上を目的とする。

- ・ 紙面にまとめる。10/5（火）北海道本部に提出か、当日持参。
- ・ 各県 3 つ用意

(3) 参加人数について

経験者、未経験者、男、女の比率を考え男 2 人、女 2 人。

分散会 リーダー連絡会のあり方について

<問題点> 単位団レベルでリーダー会の認知度の低迷。

- ・ 多くの単位団で卒団の形式がある。卒団することで、リーダー会活動が切れてしまい、単位団に戻るができなくなる。
- ・ これからの単位団の活動をどのようにして行くのか？
- ・ 単位団の活動をしていないと活動が認められない。
- ・ リーダー会活動だけの単位団を作って行く必要があるのかもしれない？

<まとめ>

単位団指導者に、これからの将来の活動を見据えた団の活動をしてほしい。

そして、今回集まったリーダーのように問題意識を持った人が、早く指導者になることで、さまざまな問題が解決されて行くのではないだろうか？

< 関東ブロック >

分散会 関東ブロックリーダー研究会の反省・改善点（埼玉県開催）

< 反省 >

- ・ 高校生がとてもよく働いていた。
- ・ アンケートが多く、内容がまとまっていた。
- ・ 講演...スポ少出身のオリンピック選手だったので、貴重な話を聞いた。
- ・ 県内での話し合い、今までの反省をもっと勉強してから参加したらよかった。
- ・ 座長と書記の役割上、全体会の発表には座長が報告した方が良かったらう。
- ・ アンケートが細かく、いいものができて、それをもとに深く話すこともできた。そして、フィードバックして県に戻すという役割を埼玉がしてくれたことが良かったので、今後参考にすべきだ。

< 改善点 >

- ・ 関東リーダー連絡会に関する話が多かったので、もう少し違うことを話し合うべきではないか？
- ・ 話し合いを始める前に、レクリエーションを取り入れれば、話し合いがスムーズに行くのではないか？
- ・ 協議すべきことは多くあり、当日限られた時間の中で何を話すか、そこが困難であった。
- ・ アンケートが来るたび集まって話し合うことは、大変だった（開催県）

分散会

< 協議内容 > 今後どうするか

- ・ 各テーマで出た解決法をみて、できるものをピックアップし、実行する。
- ・ 各都県で、問題となるものが違うので、県に戻ってから話し合い、実行していくことも大切ではないか。また、報告会によってリーダー1人1人に伝わっているのか、上の人たちのみで、突っ走っていないか。
- ・ 分からない人には、理解させる努力をし、そして後輩を引っ張っていくことが必要。
- ・ 1回1回の大会で、持ちかえって後輩に伝える。
- ・ 口頭では不十分、大会ごとに伝える。
- ・ 報告会 12月の研修会（1泊2日）

3つの年齢のランクをつくり、それぞれに報告する。

そして全体に理解を深めていく（スポーツ少年団の根本も教える）

若年リーダーの理解度が高くなったようだ。

- ・ 報告書はあるが、理解するまでに至っていない
- ・ 私たちには報告の義務がある。中心となって、これらの話し合いを活かしていく。どのように活かしていくか...

- ・ 前・後期などに分けて、ノルマを決めて、決めた目標を達成していったらよいだろう。

* 目標を立てて、その場だけではなく、意識を持ち続けることが大事。

* 今年・来年の関東リーダー研究大会に向けて、引き継ぎをしっかりとし、意識を高めて行く。

<北信越ブロック>

- ・ 基本的には、今回の連絡会で決定した事を今年度の北信越ブロックリーダー研究大会で行う。期日：11月13～14日。
- ・ 各県10人 リーダー：7～8人、指導者：2～3人。受付は14時、終了14時。

<昨年度の問題点>

- ・ 年齢差があり過ぎて、ディスカッション時のグループ活動に支障が出るので年齢別にできるもの考える。
- ・ 仲間作り、リーダー会活動の活性化（昨年主旨）
- ・ もっと仲良くなれるプログラムを組む

<レクリエーションについて>

- ・ 各県で持ち寄る。最低2つ（予備1つ）。県・年齢などの壁を無くせるようにレクリエーションを考える。
- ・ 持ち時間1県15分程で説明など入れて20分くらい。

<会議内容>

- ・ 各県の実態発表 なし
- ・ 会議のグループ分け 中学生・高校生・指導者の3つに分割

<東海ブロック>

分散会

1. 問題・改善策

問題1 若手の参加率の低下（交通費の問題）

開催地の持ち回り

公式文書にして市町村に多少負担していただく

問題2 OBとの兼ね合い（リーダーの年齢層が高いから）

資料を渡すなどの引き継ぎ

問題3 東海ブロックリーダー研究大会に参加するメンバーの固定化

新規開拓のために条件を加える

例）参加人数の半数を今まで来ていないリーダーにする

問題4 マンネリ化

組織の中では次に繋げる保留期間として必要なこと

2. 次期開催県に求めること

今までの流れ（障害についてなど）を続けて欲しい

分散会 分散会 各テーマの内容の発表

<テーマA> 解決するにはどうすればいいか？

交通費の支給をする。

リーダー会を理解してもらうために正式な文書を送る。

会報等を送る（手書きで興味の出るようなもの）

1人1人の意識レベルの向上（本人の受け取り方によって変わるが大切なこと）

<テーマ B> 引き継ぎをどうするのか？

形に残る資料（ノート、CD）を渡す（自由に見ることができないという問題がある）。

役員選出では経験が少ない人も役員に入れ、「幹事会」で資料を含め、引き継ぐ。

役員ノートを作る。

OB・OGに頼り過ぎる。

相談役として参加、過保護にならない。

リーダー会のサポート

<テーマ C> 市町村との連携

問題点 活動地域の限定

リーダーがいない団は、新しいリーダーが参加しづらい

開催要項を送っても反応がない。

交通費の問題

「卒団」という形をつくるからやりづらい

解決策 固定した場所で行わず、持ち回りにする。

様々な活動を多数の市町村で行う。

<近畿ブロック>

分散会

1. 近畿ブロックリーダー研究大会の反省や意見について

リーダー：第3回目の大会ということもあって、大会の流れ段取りがうまくいったし、勉強になった。スポーツテストやレクリエーション交流でリーダー同士仲良くなれた。

指導者：分散会のテーマが事前にあって話しやすかった。時間にゆとりがあって良かった。報告書も大変役に立つ。

報告書には「もう一度協議したほうがいい事」「第4回に必要なこと」などが書いてあるので、今一度見直して、関西らしい研究会にする。

2. ブロック毎の研究会の問題点や課題について

他のブロックの流れを見すぎると関西の良さがなくなるので、良い所は、取り入れていきたい。

3. 来年に向けて

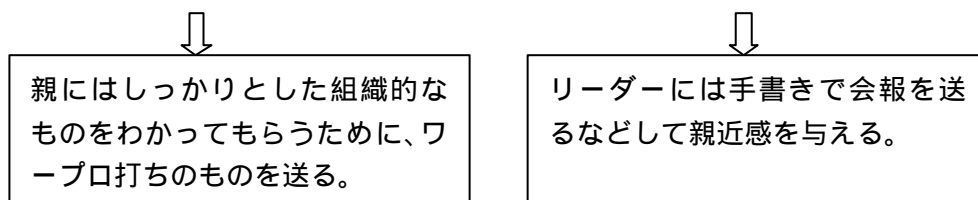
「研究・協議・交流」の3本柱を頭に置いて考えた。

- ・ テーマを決めるのは難しいので、早めに検討した方がいい。
- ・ 分散会の中間発表は、再確認できて良い。
- ・ 遊んで交流する場を持てば仲良くなれる。
- ・ 今年に続いて来年も全府県参加を目指す。ネットワークが大切。

- ・ 大阪の特徴を生かす大会にしてほしい。
- <挙げてほしいテーマ>
- ・ 講義やレクリエーションで応急処置を取り上げて欲しい。

分散会 テーマ別分散会の報告

各单位団の指導者や保護者がリーダー会をあまり理解してくれていないので、リーダー会への参加を嫌がる親が増え、出てこられない。



堅苦しく考えないで、楽しい会議・大会を今の私達で運営していきたい。
 その中でも1人1人の意見を尊重し、入ったばかりのリーダーを伸ばしたい。

「One for all All for one」

誰かがやってくれるという考えを持っている限り、大きくはなれないし、1人1人の力を伸ばそう！

<中国ブロック>

分散会

1. 全体発表会の内容についての意見

- ・ 中国ブロックの各県で温度差があるのに、「共通テーマ」を決めてもいいのか
- ・ 参加人数（～がしたいから人を増やしたいのかがわからない）

2. 現状

- ・ リーダーが何をしたいのか見えてこない、わからない。
 目指すものを明確にする そうすることで、活動・議論しやすい
- ・ リーダーが楽しむために何が必要なのか。
- ・ リーダー会をつくると、そこでしか活動しないリーダーが増えている。
- ・ 基本は単位団での活動である。その基本を押さえることが大切で、問題点を共有し、解決へと進めていくべき。基本ができていないままリーダー会が動いている。
- ・ やれと言われたことをやるのは簡単で、自分たちの力でやっていくことも大切。
「自分たちは、何のためにリーダーをやっているのか」
- ・ 年齢制限（区切りをつけて、OB・OG会へと移っていく）
 OB会へ移るのは、後に指導者へとってもらおうという願いもこめられており、リーダー会活動へと関わってほしい。
- ・ 「リーダーとはどういうものか」ということを認識しておかなければならない
- ・ リーダー会の良さを下の若い世代の子たちに伝えていくことも大切
- ・ リーダーが単位団へ戻る時の指導者の理解も必要である。

3. リーダーとして

- ・ 基本を押さえなおして出発し、他との連携をすることが大切。
- ・ 研究大会で学んだことを伝えるようにする。
その研究大会に出ることで、リーダーとしての質の向上や、意識づけができる。

4. 研究大会で共通テーマを持ち、議論できるのか

多少の温度差があるかもしれないが、共通テーマを決めて議論していくことはできる。

リーダー同士が自立して、助けあって活動することが大切である。

分散会

1. 都道府県の研修にどのように生かしていくのか。今後のリーダー連絡会のあり方

- ・ 連携をしっかりと取っていく。
- ・ 各県の状況を知り、吸収する（しかし、まずは自分の県を知ることも大切）。
- ・ 責任逃れをすることなく、リーダー自身が勉強・努力していく必要がある。
- ・ どんな形になっても“ やってみる ” が大切。
- ・ 毎年同じ所からの出発ではなく、少しでも上へと行けるように。
- ・ リーダー連絡会と研究大会との参加者をそろえるようにしたい。
- ・ リーダー連絡会は全国の人たちが集まる唯一の場所である。
- ・ 意見をその場で考えるのではなく、前もってある程度考えておく必要あり。
- ・ 報告の仕方も一工夫してみる（前年と比べて変わったことなど）

2. 研究大会に向けてのテーマ決め

リーダーのやりたいこと（目的）が明確ではなく、指導者もリーダーたちをサポートしにくいいため、方向性を示す必要がある。

「リーダーは何がしたいのか、何ができるのか

また、リーダーがこれからしていかなければならないこと」
というテーマに決定

< 四国ブロック >

分散会

1. 平成 15 年度四国ブロックリーダー研究大会の反省

- ・ ディスカッションのテーマを決めるまでに時間がかかった
- ・ スケジュールがハードだった
- ・ 他リーダーとのコミュニケーションがもっとほしかった
- ・ 準備が指導者のみで行われた
- ・ 指導者がスケジュールに参加していなかった
- ・ 高知県の不参加
- ・ 大会終了後の各県での報告の不十分
- ・ 前開催県からの連絡の不届き

2. 平成 16 年度研究大会について（スケジュール案を確認し、その中で改善すべき点と具体的な活動計画について案を出し合う）

分散会（テーマ別、リーダー・育成担当指導者別）

<リーダーA「リーダー会活動の参加者をいかに増やしていくか」>

3班に分けて問題点を話し合う

(1班) ・ 人がだんだん減っていく

保護者や単位団の指導者にわかってもらう。

- ・ 登録している人は多いのに会議に来る人が少ない。
- ・ 行けない現状がある

交通費や交流会費の問題（予算）

(2班) ・ 会議の交通費について 広報・アンケートを作る
歓迎会や交流会を開く

- ・ 会議に来る人が少ない、県外に行った人が来ない。
仲良くなる為に遊びに行く

会議の後、レクリエーションしたり、食事を食べに行ったりする。

- ・ 少人数で運営するには、“One for all, All for one”

(3班) ・ ジュニア・リーダースクールにしか来ない。

- ・ 人数が少なくても回るようにしたい。
- ・ 世代交代ができなくて上がうごいてしまう。
- ・ 1人1人の意識レベルが低い。
- ・ リーダー会の固定化。
- ・ 指導者・保護者がわかってくれない。
- ・ 中学生が来ない。手書きの手紙を送る。

<まとめ>

交通費の支給

保護者・指導者にわかってもらう

会報などを送る。

1人1人の意識レベルを高める。

<リーダーB「リーダー会の世代交代と引き継ぎ問題」>

「引き継ぎ」その定義とは？

- ・ 形に残る引き継ぎ。CDやレクノートなどを次期会長に渡す。
現場で経験させながらやろうとしている。気付いたら上の人がやっちゃっていて、下の人に引き継いでいない。
- ・ リーダースクールなどでは、サポートしてもらう。来年引き継ぐ人を主に使うようにしている。
- ・ その場でアドバイス（書面もあると良い）
- ・ 総会で経験の少ない人を役員にする。「幹事会」で1泊して引き継ぎを行う。資料が部会毎にあり、それを引き継ぐ。
- ・ 県のリーダー会で合宿して引き継ぎをする。ノートからレクなどの仕方を身体を動かして伝える（案）
- ・ ノートを書いて、次の役員に渡す。その都度中味が濃くなっていく。

- ・ 会長がノートを保管し、会長と次期会長が2人3脚で活動することで、引き継ぎとしている。
- ・ 正式な引き継ぎはないが、事務局から資料などでされる。

参加者が固定されているため、引き継ぎ対象が来ない。

解決法：ジュニア・リーダースクールの時、県のリーダー会会長がPRする。

遠方の人や年齢の低い人には、交通費の補助を。

引き継ぎ書類（資料）が自由に見ることができない。

解決法：マスターテープ・資料は体育協会でもらって持ち出し禁止にしてあり、欲しい人がコピーをする（紛失防止のため）

- ・ 書類は会長が所持、欲しい人はOBからもらう。
- ・ 資料は使う人が持っている。

OB・OGがどのようにあるべきか。

- ・ 現場の様子を見にくる。OB・OGが関与しすぎると、引き継ぎがうまくいかないのでは、できるだけ関与しないようにしている（過保護は良くない）。
- ・ OB・OGは形式上なく、抜けてしまったらそのまま。もしかしたら参加しづらい雰囲気を作っているかも。
- ・ 「相談役」として存在し、毎回来てもらい、相談に乗ってもらっている。

リーダー会のサポート的な立場

<リーダーC「都道府県リーダー会と単位団・市区町村少年団との連携」>

キーワード“連携”

<問題点>

活動地域が限定されている。

遠い地域からは参加しづらい（交通費や移動時間 etc.）

リーダーが存在しない地域では、新しいリーダーが参加しづらい。

情報が行き渡らなかつたり、前例がない為、リーダーという存在を知らないのかもしれない

リーダーの認知度が低い為、各市区町村に行事の開催要項などを送ってもレスポンスされない。

会議時の交通費の問題

<解決策> 解決策を考える時は、以後継続していけるものか？が重要

・

- ・ 固定化した場所で行わず、色々な市区町村で行事を開催したり、会議も持ち回りで行ったりすれば、負担も均等になり、遠い市町村も参加できる。
 - ・ 様々な活動を多数の市町村で行えば、リーダーの存在も知ってもらえる。
- ほとんどの県で、事業協力の際には、交通費などを負担してもらっているため、リーダーの負担はあまりない。

リーダーと単位団のつながり

リーダーが単位団に戻りづらい

指導者のリーダーに対する知識不足

定期的に活動に参加できず、きっかけがつかみづらい

- ・ 単位団での活動がリーダーの基本。
そこでの活動が各々の単位団へのリーダー会活動の還元となるのでは。
- ・ 個人対個人で説明するよりも、「リーダー会」としてリーダーの位置づけを指導者に説明してみてもどうか。

卒団制度が活動のネックに

小学校を卒業したら、もう関係ないという意識になる。

リーダーという存在がない単位団が多い。

- ・ 日本スポーツ少年団の規定に「卒団」という言葉はない。
- ・ 卒団という形を団の運営方針で取られてしまうとリーダーとして活動しづらい。
例え、卒団という形をとっても活動しやすい環境を。
これらを実践するために、指導者との話し合いの場を設ける。

<まとめ>

「連携」をうまくとっていくためには、「言葉」が必要。何かを解決していくためには、まずしっかりとした手順を踏んで、自らが行動を起こしていかなければならない。

< 育成担当指導者 A 「ブロック研究会等の研修の運営方法」 >

引き継ぎ 報告書を作成し、参加者各都道府県へ。 人から人へ、県から次の県へ
言葉だけでもいいのでしっかり伝えないといけない。

人員の少なさ = **経費** (開催県苦しい)

開催費用と各県で半々にするなど各ブロックでの工夫が必要

リーダー研究会後の皆がステップアップしているのか？

いつも前回のおさらいからスタートしているので、前に進んでいない

結局、この場合も引き継ぎやフィードバックの欠如からこのような事態が起こる。

しっかり行い、変容を見せることで刺激になる。

各ブロック内の格差も縮まる。

リーダー会と事務局の連携

事務局がしっかりしているところがリーダー会も強い。

まずは、指導者・事務局・リーダーが、互いに接触をとっているのか否か？ = 仕向けることが大事。

人と人との連携・コミュニケーションをとることが大事

1人1人の働きかけ、何かしらのアクションを起こすことが“継続する”ことにつながる = 我々指導者の意識の問題

研究大会だけの成功が本当の意味での成功ではない。
ステップアップするためにも次の1年までの“意識の継続”が必要だと見解する。

< 育成担当指導者 B 「リーダー会組織の活性化と支援方法」 >

< 問題提起 >

- ・ リーダー出身地域（市区町村）の偏り
- ・ 活動が増えすぎて負担に
- ・ 資金面の問題
- ・ リーダー会を終えた者の取扱い 上位組織での活動場所がない
- ・ リーダー会と指導者との関わり
- ・ 行事を開いた際の集め方
- ・ 試験・部活との兼ね合い
- ・ リーダー会を組織化したことで他市町村での活動に、よりアピール
- ・ リーダーの置かれた環境が変われないのが問題では
- ・ 小学校から中学校へのつなぎ
- ・ リーダー会員の不足
- ・ リーダー年齢の固定化
- ・ リーダー会則の見直し
- ・ 県レベルでのリーダー会の立ち上げ（必要か？）
- ・ リーダー育成はどこが担うのか？”（県レベルとして）
各県の事情があるので、それぞれで整備（整理）すべき

< まとめ >

今回の参加者が地元に戻って一步を踏み出すことが必要（報告、実行）

< 育成担当指導者 C 「リーダー育成の問題」 >

- ・ ジュニア・リーダースクールの講師の固定化
- ・ ジュニア・リーダースクールの参加対象年齢が早いのでは
- ・ リーダーを理解している指導者が少ない
- ・ リーダー会活動をしている市区町村が少ない
- ・ 少年団の存在を理解していることが少ない
- ・ 親の理解がない
- ・ 市区町村での担当者の理解がない
- ・ 大学で県外に出てしまう
- ・ 大学へ県外に出たリーダーの支援
- ・ 規約の改定に際し、指導協・理事会・本部役員の3つを通さなければならない
- ・ 県の規約の中に、リーダー会が出てこない。
- ・ 中学生で卒団してしまう
- ・ リーダーなのか、指導者なのか、立場が曖昧になっている。
- ・ ジュニア・リーダーから、シニア・リーダーへのつなぎがうまくいかない
- ・ スポーツ少年団と学校の部活動の連携

参加者アンケートで多く見られた意見・要望

<内容に関する意見>

- ・ 毎年同じ話し合いの繰り返しで、進歩がない。
- ・ 次年度に繋がられるようなテーマ設定・プログラムの検討が必要である。
- ・ 分散会のテーマを事前に通知して欲しい（都道府県で事前に協議できるように）
- ・ 連絡会不参加県への日本スポーツ少年団からの働きかけをして欲しい
- ・ 次年度参加者への引き継ぎができない
引き継ぎの問題については、分散会協議内容を参照
- ・ リーダー参加者を2名にして欲しい

<連絡会・リーダー会のあり方に関する意見>

- ・ 全国リーダー連絡会とブロックリーダー研究大会の役割（関連性）を明確にして欲しい。
- ・ 都道府県・市区町村におけるリーダー会の位置づけの明確化

まとめ

本年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会では、初の試みとして、リーダー・指導者別の分散会をテーマ別分散会とし、それぞれ3つのテーマを設定して意見交換を行い、そこで出された問題をブロック分散会に持ち返って協議する形を取った。

事前アンケートの中で多く挙げられている課題をテーマとして設けたこと、事前に参加者から進行役となるコーディネーターを選んでいたことで、活発な意見交換が行われた。

しかし、協議時間の短さや、テーマに対する準備時間がなかったためか、課題に対する具体的な解決策等の結論を導き出すまでには至らなかった。

ブロック分散会は、ブロックリーダー研究大会の準備や反省の機会と捉えているブロックも多いが、「ブロック研究大会の打合せをあえて連絡会で行う必要がない」「他ブロックとの意見交換を多くしたい」との要望も出た。

全体発表会では、各ブロック研究大会について報告されたが、発表者（リーダー）・発表内容・資料とも昨年より質が向上してきたようである。

連絡会の課題としては、例年同じ問題が繰り返し協議され進歩がないという意見を多くいただいた。参加者が毎年変わることで、引き継ぎがなされていない、という問題も出ているが、この問題については、今回テーマ別分散会で協議され対応策も挙げられている。

現在は、全国連絡会・ブロック研究大会の役割が混在している面もあるが、今後は、全国連絡会・ブロック研究大会の役割を明確にするとともに、上述のアンケートで多く出された意見に対し連絡会としてどう取組んでいくか、指導育成部会を中心に検討していきたい。